

しのめ

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802

FAX (0263)51-1290

E-mail: sogokyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp

目次

「センター評議員会 開催」	p.1
「今年度の研修講座の様子」	p.2
「『年末年始休みの課題帳』ご活用ください！」	p.3

センター評議員会 開催

出席評議員（敬称略）

鳥谷越 浩子	長野県高等学校長会 副会長
井坪 秀明	長野県国公立幼稚園長会 会長
山田 直幸	長野県PTA連合会 副会長
中川 雅能	長野県高等学校PTA連合会 副会長
近藤 守	長野県市町村教育委員会連絡協議会 会長
青柳 信雄	塩尻市中央公民館 館長
奥原 しげ子	塩尻商工会議所 女性会 会長
香山 瑞恵	信州大学工学部電子情報システム工学科教授
滝沢 克子	信濃教育会教育研究所 部長
堀江 三定	長野県産業教育振興会 会長
伊藤 かおる	株式会社コミュニケーションズ・アイ代表取締役社長
矢野口 仁	松本大学教育学部教職支援室 講師



9月26日（火）、本年度は参集とオンラインのハイブリッド方式で評議員会を開催しました。冒頭で、4年ぶりにセンターに参集し、ペアやグループで対話をする受講者の姿を動画で紹介すると、評議員の皆さんから、「先生方がこのセンターに集まり、様々なテーマについてお互いに学びを深めている姿に接し、教員の研修がパワーアップし、力強くなってきている」という感想をいただきました。

〔 評議員会でいただいたご意見（抜粋） 〕

- ◆「対話」を大事にしながら、自身の実践の省察とそれを再構成していくために、工夫した研修講座を運営されていてありがたい。大事な視点である。
- ◆現状の教育課題として話題になっている「探究的な学び」「個別最適な学び」などに対応する講座を実施し、研究主任や教務主任等へ積極的な受講を促しながら、さらに「教職員研修会サポート」を通し、受講者の学びが学校内で共有され、実践に生かされるようにしたい。
- ◆キャリア教育を単に進路選択や学校選びのための手段ととらえるのではなく、一人一人が長野県でどう生きて働くのかというイメージをもち、学びと未来とを結びつけられるようにするものとして、そのノウハウを共有できる場を作れないか。
- ◆教科横断的な研修の一環として、「STEAM教育」のような次世代の人材育成にかかわる研修や、「情報科科目」の研修を充実させてほしい。
- ◆研修の中には、「目的」と「手段」に齟齬が見られるものもあるのではないかと。対話やワークショップも大事だが、それありきではなく、目的達成のために何が必要かという視点で運営につなげてほしい。

様々なお立場から貴重なご意見をいただきました。今後の事業運営、研修づくりに反映させてまいります。

※今年度の評議員会の要旨はセンターのホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

今年度の研修講座の様子(教科教育部, 生徒指導・特別支援教育部)

中学校・高校英語 基礎Ⅱ ～楽しみながら力がつく言語活動～ 6月16日(金)

この講座は、生徒の思考を促す言語活動を、どのように授業に取り入れたらよいかを見出すことがねらいです。そのために、英語を使った様々な活動を受講者が体験し、学習指導要領に示されている「対話的な言語活動」について理解を深めました。

演習(グループワーク)

Warm-Upで行われることが多い「しりとり」は、「対話的な言語活動」かどうか、目指す資質・能力を育むことができるか、体験を通して考えました。



“Island Survival”をテーマに、無人島で見つけたものを使って、生き残る方法を考え、それを英語でどう表現したらよいかを、「話すこと[やりとり]」の活動を通して学びました。

各グループの代表者による発表を聞くことで、さらに理解を深めることができました。



楽しみながら、お互いの考えを伝え合うことで、どのような効果があるのか、学びを深めました。

また、体験した言語活動を授業に取り入れる際の段階的な指導や、グループ分けの工夫などについても考えました。



◆受講者の感想◆

生徒の立場で様々な言語活動を体験でき、授業がコミュニケーションの場になる、「対話的な言語活動」について理解できました。

Small TalkやTriangle Debateなど、やりとりが必要な活動を早速取り入れたいです。

Island Survivalのように、生徒が楽しみながら、英語を話したいと思う題材や設定を考えたいと思いました。

活動の中に情報共有(sharing)を設けるだけで、質の高い言語活動になることも分かりました。

クラスの中の気になる子の支援 基本Ⅰ ～小学校 通常の学級～ 8月24日

本講座は通常の学級に関わる先生方向けの講座で、「小学校」の先生を対象に開催しました。(「中学校」は10月6日「高校」は7月10日)インクルーシブな教育の実現を目指し、クラスの中で対人関係面、行動面、学習面などで、特別な支援を必要としている児童生徒の理解を深め、具体的な支援方法について講義や演習を通して学び、日々の実践に生かすことをねらいとしています。

植草学園短期大学 漆澤 恭子名誉教授に「子どものつまずきの要因や背景」「具体的な支援の仕方のアイデア」「多様性を認め共に成長する集団づくりの考え方」についてご教示いただきました。それを踏まえ、グループごとに「15分解決法」を用いて事例検討を行いました。お互いの支援について、実践のアイデアを出し合い、「自分にはない視点に気づけたり、同じ悩みに共感できたり、帰校後の実践のヒントが得られた」という感想が多く寄せられました。



◆◆受講者ふりかえりから◆◆

- ・気になる子に対して、“何とかしなければ”ということばかり考えてしまっていたことを反省した。よい所を大切に、その子のこともみんなのことも“ひいき”してあげるという考え方はとても温かいと思う。そんな支援ができるようになりたい。
- ・クラスの中の気になる子に特に目を向けがちだが、周りの子へのフォローも大切にしようと感じた。

「年末年始休みの課題帳」 ご活用ください！



多くの先生方に、国語、算数・数学、理科の「休みの課題帳」をご利用いただいています。身近な生活場面を題材にした、ちょっと思考が必要な問題を用意しています。

今回は、年末年始休みの課題帳から、中学校1年生の数学の課題の一部を紹介します。

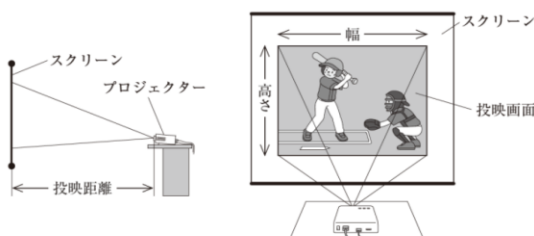


長野県総合教育センターHP トップページから

教育情報 → 「学びの広場」 → 休みの課題帳

健治さんの学校では、新入生歓迎会のときに、体育館で部活動紹介の映像を流します。映像は、プロジェクターでスクリーンに映し出します。そこで、健治さんはプロジェクターの置き場所を決めるために、プロジェクターについてインターネットで調べました。

健治さんが調べたこと



投影距離 (m)	投影画面の大きさ		
	高さ (m)	幅 (m)	面積 (m ²)
1.0	0.6	0.8	0.48
1.5	0.9	1.2	1.08
2.0	1.2	1.6	1.92

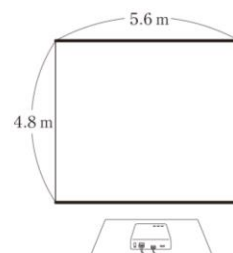
- 投影画面の大きさは、投影距離によって変わる。
- 投影画面の形は、調整されて、いつも長方形になる。
- 投影画面の高さや幅は、投影距離に比例する。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 投影距離を x m、投影画面の高さを y m とするとき、 y を x の式で表しなさい。

(2) スクリーンの高さは 4.8 m、幅は 5.6 m です。投影画面を、スクリーンからはみ出さないようにして、できるだけ大きく映し出すためには、投影距離を何 m にすればよいですか。下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 5 m イ 6 m
ウ 7 m エ 8 m



(3) 健治さんは、映像が暗くて見えにくいのではないかと気になりました。しかし、プロジェクターの光源の明るさを変えることはできません。そこで、映像の明るさについて調べると、映像の明るさと投影画面の面積の関係は、次の式で表されることがわかりました。

$$(\text{映像の明るさ}) = (\text{プロジェクターの光源の明るさ}) \div (\text{投影画面の面積})$$

このとき、映像の明るさを2倍にするにはどうすればよいですか。下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいことの原因を、上の式で表される関係をもとに説明しなさい。

- ア 投影画面の面積を2倍にする。 イ 投影画面の面積を $\frac{1}{2}$ 倍にする。

このような問題を準備しています。ぜひ、ご活用ください。